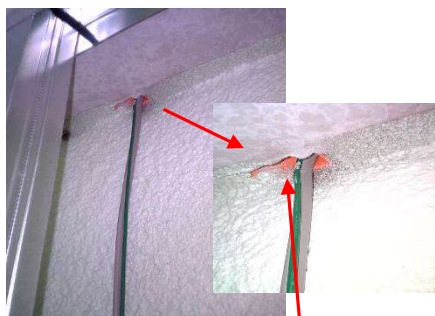


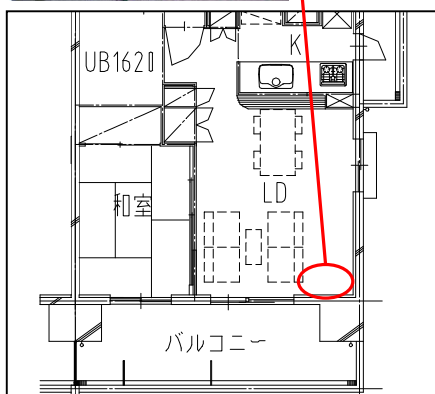
設備工事情報シート	電 気	IV-E-2	制 定	2004年4月1日
			改 訂	2014年2月1日
IV. アフタークレーム	間違いやすい設計・施工事例		打込み配管よりの結露	

1. 目的・概要

外壁に面する躯体断熱部分に、電線管を打ち込み、防露処置が不十分だと結露を生じ内装（クロス・ボード）汚損に至る可能性がある。
以下に不具合事例を示す。

2. 不具合事例





3. 処置方法





* 設置状況

3LDK分譲マンションの1階住戸のリビング・ダイニング外壁面（図面中○囲み梁部分）にクーラー用コンセントを設置する為、梁手前にエンド伏にて布設した管路内にFケーブルを通線し、仕上げ工事完了後にコンセントを設置した。

* 不具合状況

引渡時（春季）には不具合は無かったが、冬季にLGS（写真左）にてふかした梁型底部ボード・クロスに水漏れによるシミ・カビが発生した。

* 是正措置

当該住戸バルコニーは近隣建物の影響もあり、他住戸と比較し明らかに日当たりが悪く、このため冷えやすい隅角部に打ち込んだ電線管の内部空気が結露したものと考え、密封を目的としたパテ注入を行った。

* ポイント

内部結露の発生し易い電線管・ボックス類は原則打込み配管は行わない。

やむを得ず断熱層外部に打込む必要がある場合はパテ等にて配管内密封を行うことが望ましい。